第16巻　第6号
発行日　令和2年10月23日

長崎県立長崎北高等学校

長崎北高ＮＥＷＳ　10月号

ホームページもご覧ください。
http://www.news.ed.jp/kita-h/

１１月の行事予定

日	曜	行　事	日	曜	行　事
1	日	進研記述② 進研マーク③ 特別模試①	16	月	
2	月		17	火	考査時間割発表 ①②
3	火	文化の日 大学別模試③	18	水	
4	水		19	木	
5	木		20	金	
6	金	県高校駅伝	21	土	プレマーク③
7	土		22	日	プレマーク③
8	日		23	月	勤労感謝の日
9	月		24	火	期末考査①②
10	火	生徒総会	25	水	
11	水		26	木	
12	木		27	金	
13	金	県総文祭	28	土	
14	土	北高模試③	29	日	
15	日		30	月	

北高の児等へ

「異文化」

事務長　谷本　秀紀

大学を選ぶときに考えたことは「なるべく親元から遠く離れる」ことでした。ご多分に漏れず親と過ごすことを疎ましく思っていた高校生は単純に「簡単に訪ねて来ることができないところに行きたい」と考えたのでした。進学先は宮城県で、思惑通り入学手続きとアパート探しの際に父親が同行した以外、長崎からの訪問者は皆無でした。

学部の定員は約８００名で、これが１６のクラスに分かれました。－ 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、千葉、神奈川、新潟、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、大阪、愛媛、高知、長崎、宮崎 － 以上が私のクラス５０名の出身地で、北から南までほぼ全国を網羅していました。（名簿に名前があった東京から来るはずの同級生とは、現在まで会えずじまいです。）

４０年近く前です。テレビが普及したことなどで随分言葉は標準語化されていたとはいえ、方言やなまりはかなりありました。記憶に残っているのは、青森弁や山形弁など東北各県のほか名古屋弁、土佐弁あたりでしょうか。当然私も含まれており、「ほげる」や「なおす（しまう）」を使った時の相手の表情は複雑でした。

ことばが違うように各地の文化（この言葉が適切かは分かりませんが）も様々であったと思います。同じことに向き合うのに、人によって考え方は様々です。勿論、考え方の違いは、もって生まれたものや、育った環境、受けた教育、自身の興味・関心、傾倒する人物の考え方や生き様など多くの要因によりますが、家族や生まれ育った地域の影響は小さくないと思います。

私が長崎を離れたのは４年間だけですが、今思えば、その時にそれまでに経験したことのない「文化」に多く触れることができました。これはその後の生き方に少なからず影響を与えています。長崎に戻ってから五島で生活した３年間にも同じことが言えます。２人の息子には常々「関門海峡は越えろ」と言ってきました。長男は熊本へ進学しましたが、在学中にバックパッカーとしてアジアやヨーロッパで様々な人と交流し、今は東京での社会人生活です。二男は神戸で彼なりの大学生活を送っています。

ご家庭やご家族によりそれぞれにご事情がおありでしょうから、自分の考えを押し付けるつもりはありませんが、いろいろなものを吸収できる年齢のうちに、できるだけ多くの文化（身近にも異文化は多くあります。）に触れる機会を作ってはいかがでしょうか。ＩＣＴが発達した現在であれば、また違うアプローチもあるのかもしれません。北高生に明るい未来があることを信じます。

TO BE WELL BALANCED
～両道顕揚～　誇りをもち、自信をもつ

「第56回生 「総合的な探究の時間」中間発表会

私たち５６回生（２年生）は、９月２４日に「総合的な探究の時間」に行った活動の中間発表を行いました。今回沢山の班の中間発表を聞き、「総合的な探究」は物事の〝はじめの一歩〟ではないかと思いました。なぜならこれがきっかけで将来の進路に関わることが見つかるかもしれないからです。そして、この活動には大きな可能性が秘められているとも思います。高校生はこれだけのことしかできないではなく、高校生だからこそ、沢山の事ができるのではないでしょうか。これからも自分達が調べたこと、興味があること、好きなことを掘り下げて、自分の“はじめの一歩”として次につなげ、発展させていきたいです。

56回生総合探究委員長　宮﨑　小遥

【生徒会専門委員会後期役員任命紹介】

１０月２日（金）に、生徒会専門委員会新役員の紹介が放送で行われました。専門委員会の委員長は２年６組の若村侑風さん、副委員長は１年２組の鶴山夏菜さんと３年７組の斧口紘也さんが任命されました。専門委員会委員長の若村侑風さんが、「後期の目標は『克己』(己に打ち勝つ)であり、ひとりひとりが北高をより良くするために自主的に行動していきましょう」と北高生全員に呼びかけました。

なお、任命状の授与は９月３０日（水）に校長室で行われ、北高生の代表として、よりよい学校づくりのために頑張っていきたいと決意を表明していました。

生徒会担当　宮本美咲

【共通テスト１００日前集会・進路講演会】

１０月７日（水）に、３学年の共通テスト１００日前集会と進路講演会を行いました。

１００日前集会では、大谷教頭先生より５５回生への思いについて、学年主任の立山先生より今後の心構えについて話があり、３年３組の髙岡真衣さんが決意を述べました。

また、進路講演会は本校７回生でベネッセコーポレーション顧問の田川祐治先生を講師にお迎えして、「受験勉強　楽しく取り組もう」の題で行いました。講演では、粘り強く学習して悔しさをバネに励むこと、学習内容を「身に付く」まで追究すること、高い志望校へ挑戦し続けることについて、力強く語っていただきました。お礼の言葉では３年１組の藤井明さんが、受験に向かう意気込みを述べました。５５回生はこの後、早速放課後特別授業に臨み、より真剣に学習へ取り組んでいました。

3学年担当　小宗武裕

【人生の達人セミナー】

１０月１３日（火）に令和２年度「心に響く人生の達人セミナー」を開催しました。講師は、（一社）ながさきSDGｓ機構代表理事で長崎大学名誉教授の溝田勉（みぞた　つとむ）様です。コロナウィルス感染拡大を防ぐために各クラスより代表者１名を選出し、先生の前に集まり講演を直接聞きました。他の生徒はリモートで映し出される会場の様子を教室で視聴し、クラス代表生徒が質問する姿などを温かく見守り熱心に講演内容を聞いておりました。

溝田先生からは「今の高校生に伝えたいこと」と題して、顕在意識と潜在意識、国際社会で生き抜くために、ＳＤＧｓ・ＭＤＧｓ・人間の安全保障というテーマで話をしてくださいました。特に、潜在意識を引き出すために「よい夢を見よう」と「前向きなことを言おう」の二つのことについて詳しく話をされ多くの日本の実業家がこのことを実践することで成功を成し遂げたと強調されました。

研究・図書部　松下哲磨

大会結果報告

●陸上部　長崎県高等学校新人体育大会
【男子】　800m　６位　中山大地

●テニス部　全国高校選抜テニス長崎県大会
【女子】　１回戦　５－０　西陵
２回戦　０－５　海星

●野球部　九州高等学校野球長崎県大会
１回戦　４－５　島原農

●写真部
長崎県高等学校総合文化祭県高校写真展
最優秀賞　筒井涼介
（令和3年度全国総文祭に推薦）

●百人一首かるた部
長崎県高等学校総合文化祭
県高校百人一首かるた競技　準優勝